

## 知って得する医師の話シリーズ74



### 心不全について

循環器内科 医長 伊集院 駿

皆さん、「心不全」という病気を聞いたことがありますか。その名の通り、「心臓の調子が悪い」状態のことをいいます。ですが、それだけではありません。一般的に医師がいう「心不全」の意味は、「心臓の調子が悪くて、肺や体に水がたまっている」状態のことです。

心臓は全身に血液を送るポンプの役割をしています。しかし、掛け流しの温泉とは違って、全身で使った汚れた血液は必ずまた心臓に戻ってきます。心臓に戻る前に肺を通り、酸素を含んだきれいな血液に変えられるのです。このように血液の流れは、「心臓→体→肺→心臓」と循環しています（この領域に携わっているので、私たちは”循環器内科”と呼ばれます）。

ですが、心筋梗塞で心臓の機能が落ちたり、血圧の高い状態が続いて血管に負担がかかると、この流れが悪くなります。ホースをつまむとその手前で膨らむのと同じように、心臓に戻ってこられない血液は、その手前にある肺や体にたまります。そうすると、風邪のような咳がでたり、ちょっと階段や坂道を上ただけで息切れがしたり、顔や足が異常にむくんできたりします。これが心不全です。

心不全の原因は様々で、心筋梗塞や不整脈、弁膜症（心臓のお部屋を仕切る弁の調子が悪い）といった、もともとの心臓の病気を抱えた人が水分の取りすぎでなることもあれば、ただ単に何かのきっかけで血圧がぐっと上がって心不全になる方もいます。

治療は、「たまった水分を外に出す」ことです。基本的には、点滴や飲み薬の利尿剤を使っておしっこに水分を出してあげるだけで、心不全は良くなります。ただ、心不全を繰り返さないようにするために、血圧を下げる薬や心臓を守る薬を飲むことが再発防止に重要です。心不全の入院回数が増えれば増えるほど、寿命が縮まることが最近の研究でわかっています。毎日の薬をしっかり飲んで、入院を繰り返さないことが大事なのです。

咳や息切れ、むくみがある人の全てが心不全というわけではありません。風邪で咳をしたり、腎臓の調子が悪くてむくむ人もいるでしょう。心不全がどうかは、胸のレントゲン、心臓の超音波検査や血液検査でわかります。疑わしいと思うなら一度、私たちの循環器内科を受診してください。

## 平成29年度 第1回 南薩地域医療・福祉施設交流会を開催して

平成25年より南薩地域医療・福祉交流会を開催し、地域の方々と顔の見える関係づくりに努めているところです。

早速ですが、平成30年4月より診療報酬と介護報酬が改定されます。今回、「平成30年度診療報酬改定のゆくえ」をテーマに、11月27日（月）に株式会社アステム小浦嘉朗氏よりお話をいただきました。82名参加していただきましたが、皆さん熱心に聞いておられました。地域包括ケアシステムの構築を念頭に、それぞれの事業所が担っている役割を再確認する機会ができました。

今後も、研修を重ねつつ内容を検討し、地域との連携を図っていきたいと思います。



## セクション紹介（検査部）

臨床検査技師 前之原 義人

私ども検査部には6名の臨床検査技師がおり、お互い協力しながら日々、検査業務を行っています。検査技師の中には専門分野の資格をもつ細胞検査士（1名）、超音波検査士（2名）も働いています。

検査業務内容は大きく検体検査部門と生理機能検査部門に分かれ、検体検査はさらに尿検査など行う一般検査、血液などを扱う生化学検査、血液検査、免疫血清検査などの部門で構成されています。一方、生理機能検査は心電図や肺機能検査など直接患者さんの生体情報を調べさせていただく部門で、波形など目に見える形にして先生方に提供し、診断に役立つよう心掛けています。



私たちは患者さんから預らせていただいた血液や尿などの検体を大切に扱い、正確かつ迅速に検査結果を返すことをモットーに業務に励んでいます。今後とも、検査を通じて地域医療を支える部門として、信頼を得られるよう尽力していきたいと思います。

## 避難訓練を実施いたしました

今年度2回目の避難訓練を11月27日（月）に実施しました。

今回は、2病棟食堂付近からの出火を想定し、消防署への通報、初期消火、患者搬送及び避難誘導の訓練を実施し、院内の消火設備の取扱いや緊急時の行動等を再確認しました。

また、転入者や新規採用者を中心とした消火器及び消火栓及の実働訓練も併せて行い、消火設備等の取扱い技術の向上を図りました。

これからも、薩南病院は全職員が防火対策に積極的に取り組んでまいります。



通報訓練



↑ 初期消火訓練



↑ 模擬患者搬送訓練



↑ 消火器実技訓練



↑ 消火栓実技訓練

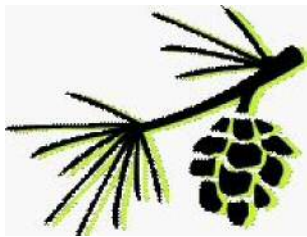
## 第3回南さつま市消防本部屋内消火栓競技大会に参加しました

秋季全国火災予防運動期間の初日にあたる11月9日（木）、爽やかな秋晴れの中、南さつま市消防本部による屋内消火栓競技大会が市消防本部訓練場にて開催され、一昨年、昨年に引き続き、当院からも機動力に長けた職員が3名出場いたしました。

結果は、15チーム中6位と上位入賞を逃しましたが、自衛消防の大切さと迅速かつ正確な消火栓の取扱いを学ぶ良い機会となり、日頃からの防火意識が更に高まった競技会出場となりました。







「薩南病院 がん患者と家族の会」  
松実会 ミニコンサート

10月12日(木)、正面玄関前のロビーで、ボランティアの方によるミニコンサートが行われました。クラリネットの演奏の合間には紙芝居も披露され、その美しい音色と優しい語り口に、入院患者さんや外来患者さん、職員等総勢40数名がうっとりとして聞き入って、癒やされる時間を皆で共有していました。



○当院の正面図・周辺地図



【所在地】 〒897-1123 鹿児島県南さつま市加世田高橋1968-4

【TEL】 0993-53-5300

【FAX】 0993-53-6764 (事務室)、53-5436 (地域医療連携室)

☆ 地域医療連携室 相談支援センター(外科外来横)では、患者様やご家族からのご相談をお受けしております。どうぞお気軽にご利用下さい。

薩南病院の理念

県立薩南病院は、中核的病院として地域医療に貢献し、住民に信頼され、安心して医療を受けられる病院を目指します。

方針

- 1 職員は、常に「患者さんのための病院」であることを自覚し、安全に充分配慮して医療サービスを提供する。
- 2 職員は、常に研修・研究し、医療の質の向上に努める。
- 3 職員は、常に「和」をもって、より充実したチーム医療を実践する。
- 4 県立薩南病院は、常に他の医療・保健・福祉機関と連携し、効果的で最善の医療を提供する。